

社会科

小林 祐貴・原紺 政雄・伊藤 公一・山下 徹

1 社会科の基本的な考え方

(1) 社会科の授業づくりについて

社会科は、その名のごとく、私たちが暮らす「社会（民主主義社会）」を学ぶ教科である。戦後、民主主義社会を日本に形成するため、アメリカのバージニアプランをベースに学習指導要領（試案）が構成されたことに由来する。このバージニアプランは、社会科を中心とした「民主主義社会」の一員を育むコアカリキュラムの形態をとっている。そのため、現在でも学習指導要領では、子供たちに民主主義社会の一員として公民的資質を育成することを目標として示している。また、社会科は「Social studies」と示すように、地理学や歴史学、経済学などの社会諸科学の成果を踏まえた教科と言える。故に、社会科で習得する教育内容は、社会諸科学の成果につながる知識・概念であり、これを我々が暮らす民主社会を知りわかる上でのスコープ（視点）として活用し、社会の仕組みをとらえたり社会問題について考えたりする手立てとする。さらにそれを基に、様々な社会事象に対して自らの考えを踏まえ価値判断・意思決定したり、未来予想したりすることもできる。

(2) 「共に生きることを学ぶ」について

2015年の国連総会で持続可能な開発目標「SDGs」が示され、「2030 アジェンダ」2030年までに世界が達成すべき目標が掲げられた。その目標は、全ての人々が誰一人取り残されることの無い世界を目指すというものである。17の目標は、人権や平和、自然など、人と人・人と地球が共にあり続けることをめざしたもの、すなわち「共に生きること」が内容になっている。社会科が地理学や歴史学、経済学などの社会諸科学の成果を踏まえた教科であること、また、民主主義社会の一員として公民的資質を育成することを目指した内容であることを考えると、学習の中で「共に生きることを学ぶ」ことは社会科の大きな使命といえる。それを受けて、社会科では、将来その持続可能な世界の担い手である子供達に育むべき資質・能力が提言され、それらを効果的に育むための方法的研究が盛んに行われてきた。その研究の積み重ねの中で、社会科部として授業づくりの中で大切にしたいことを整理した。

社会科でめざす子供の姿	社会科の授業づくりの特徴
① 学びに向かう子供の姿（狭義） 学習を通して身につけた社会の見方を、日常の社会生活の事象や問題に照らし合わせて考え、学習する意味や価値を実感できる子供	社会的な課題や問題を主体的に考え、仲間とともに協働的に解決する授業設計を基盤とした授業が特徴となる。 ・子供が興味をもって自分ごととして考えられる身近な教材の選定。
② 結果としての子供の姿（広義） 学習を通して身につけた社会の見方・考え方を総動員し、身近な日常生活の問題や社会問題について考え解決しようとする子供	・課題解決に向けた資料の効果的な活用場の設定。 ・課題解決に向けた協働的な学び場の設定。

2 研究の目的

「共に生きることを学ぶ」社会科の授業づくりの中で、めざす子供像に向かうための手立てが有効なものであったか明らかにすることを目的とする。

3 研究の方法

- ①社会科の授業づくりで大切にしたいことを基に（表1）、小学校および中学校の授業構想、実践、考察を行う。
- ②「共に生きることを学ぶ」社会科の授業づくりのあり方、有効な手立てについて分析する。
- ③めざす子供像に照らし合わせ、それに向かう児童・生徒の変容の見取りを通して、教材開発及び指導の手立ての妥当性を吟味・検討する。

表1 授業づくりの中で大切にしたいこと

場面	具体的な内容
授業構想	・児童・生徒が興味をもつことのできる面白い「問い」や「教材」を見つけること ・「持続可能な社会」に向け、公民的資質を兼ね備えた児童生徒の育成をめざした目標を設定すること ・児童・生徒が学習内容について、日常の事象に関連付けたり、身近に感じたりする中で、「当事者意識」をもち自分ごととして捉えていけるようにすること ・児童・生徒が「多面的・多角的」に思考できるような、教科横断的な場面を設定すること
授業実践	・児童・生徒が「問い」や「教材」に対して課題意識を高められる出会いをつくること ・児童・生徒が、自分ごととして捉えられるような手立てを講じること ・学習の足跡を視覚化できるようにし、児童・生徒の思考を整理すること ・課題意識を高めたりや課題解決の手がかりにしたりするための資料を効果的に扱うこと ・課題解決に向けて協働的な学びの場となるような活動にすること

【引用・参考文献】

- 安彦忠彦（2014）『コンピテンシー・ベースを超える授業づくりー人格形成を見すえた能力育成をめざしてー』図書文化.
- 石井英真（2015）『今求められる学力と学びとはーコンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影ー』日本標準.
- 石井英真（2017）『小学校発 アクティブ・ラーニングを超える授業ー質の高い学びのヴィジョン「教科する」授業』日本標準. 岩田一彦(1994)『社会科授業研究の理論』明治図書.
- 内山節(2014)『主権はどこにあるかー変革の時代と「我らが世界」の共創』農文協.
- 木村博一(2002)「初等社会科教育学の構想」『初等社会科教育学』協同出版, pp.5-14.
- 木村博一(2006)「新しい学びにもとづく社会科授業開発の基礎基本」社会認識教育学会編『社会認識教育の構造改革-ニュー・パースペクティブにもとづく授業開発ー』明治図書, pp.144-149.
- 木村博一(2015)「社会の見方や考え方を育てる社会科」日本教科教育学会編『今なぜ、教科教育なのかー教科の本質を踏まえた授業づくりー』文溪堂, pp.43-49.
- 新谷和幸・中丸敏至・松岡靖・沖西啓子・伊藤公一・木村博一・永田忠道(2014)「グローバル社会に対応した国家・社会の構造を認識する社会科授業開発ー附属小学校 3 校の共同研究の成果としてー」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第 42 号, pp.57-66.

新谷和幸・中丸敏至・伊藤公一・服部太・沖西啓子・木村博一・永田忠道(2015)「文化に焦点化した『グローバル社会学習』の授業開発－附属小学校 3 校の連携を生かして－」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第 43 号, pp.153-162. 新谷和幸(2015)「グローバル化する社会をとらえ児童に公民的資質を育む授業とは」第 64 回全国社会科教育学会全国研究大会課題研究 I (3)発表資料.

新谷和幸・中丸敏至・伊藤公一・服部太・沖西啓子・木村博一・永田忠道(2016)「グローバル化する環境問題に焦点を当てた『グローバル社会学習』の研究－附属小学校 3 校の連携を生かして－」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第 44 号, pp